

# 令和5年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

## 【第4回】

令和5年10月31日（火） 午後6時00分～ 場所：総合学習センター  
「教育論文のまとめ方」 講師：北中学校 西尾 修一 指導員



### 教育研究論文に挑む意義

なぜ、教育論文を書くのか？

- 教師自身の成長のため（書くことによって自分を育てる）
- 目の前の子どものため（書くことによって子どもを育てる）

### 教育研究論文を書く意義

- 教育指導の側面から（具体的な手だてや指導方法が明確になる）
- 研究の側面から（行き当たりばったりではなく、見通しをもった指導ができる）
- 精神的な側面から（子どもが成長し、変容していく姿を間近で見て、教師としての喜びを感じる）
- 優れた実践≠優れた論文→論文の価値と実践の価値は別のもの

### 教育研究論文の基本構成

序論 5～10%（1はじめに・主題設定の理由、研究の動機、めざす子ども像）、本論 80～85%（2研究目標、方法、計画・目標、仮説、方法、計画、単元構想）と3研究の内容・実践、考察）、結論 10～15%（4まとめ・結果と5今後の課題・結論、課題）が目安になる。

自分の主張を人に読んでもらい、理解してもらうためのものであり、①興味深く②わかりやすく③読み手が読む意欲をもてることを大切に書く。

### 論文の書き方（理論部分）

研究主題は、論文の内容、執筆者の実践の意図を端的に表したものにするとよい。また、主題設定の理由はなぜこの研究をすることが必要かを書く。目の前の子どもの姿から、主題の課題性や必然性を説く。こんな子どもにしたい、こんな力を身に付けさせたいという願いを明確に書くとよい。**目指す子ども像、仮説、手だてまでが一貫していることが大切**である。

- 例： **目指す子ども像** 問題の解決に向けて、主体的に考える子ども
- 仮説** 生活に密着した場面や、身近な題材を用いたゲームの中から生まれた問いを考えることで、問題を自分事としてとらえ、主体的に問題を解決することができるだろう。
- 手だて** ①子どもの生活に密着した場面を取り上げたり、楽しいゲームを取り入れた体験活動を取り入れたりする。  
②問いが生まれた場面を共有する。

抽出生徒は、学級の子どもの実態を浮き彫りにしている子ども、この子をなんとか〇〇したいという教師の願いから1・2人程度（観察しやすい、比較対照できる）選ぶとよい。

### 論文の書き方（実践部分）

実践部分の3本柱は、①事実と考察②客観的・具体的③資料の活用・引用である。資料は教師が講じた手だてにより、子どもがどのように変容していったのかを示すために活用するものである。必要な資料は何かを、十分に検討し、精選して提示したい。写真の提示も有効。学習記録、ワークシート、対話記録、教師メモ、生活ノート、授業記録、座席表、写真などが挙げられる。手だての検証・考察は手だてを講じた場面にて、仮説の目指す姿に迫れたかを検証・考察することが必要である。成果は、手だてを講じたことで、仮説の目指す姿に迫ることができ、仮説が妥当であった部分について述べる。課題は、自分の研究によって何が分かり、何が問題や課題として残ったのかを明確に述べる。

### よい教育研究論文の条件とは

（1）子どもを前面に出し、一人一人の子供を大切にしているか（2）論旨が明確で一貫した論文になっているか（3）論文としての体裁が整っていて、内容が正確なもの（4）創造的な研究が継続的・集中的になされているか（5）明確な文章表現や記述であるか（6）応募規定に準拠しているか（7）読み手を意識した「作品」になっているか

### 最後に

「論文を書く」という機会をもらえて

- ・力量向上できる！と前向きにとらえてみる。
- ・もう一度、しっかりと子どもの姿を見るように意識してみる。
- ・授業のあり方について考え直してみる。